

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1292200167		
法人名	社会福祉法人小羊会		
事業所名	グループホーム豊四季台		
所在地	千葉県柏市豊四季台三丁目1番4号		
自己評価作成日	平成24年11月6日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社 日本ビジネスシステム		
所在地	千葉県市川市富浜3-8-8		
訪問調査日	平成24年11月13日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

<p>入居者様の今までの生活を尊重しながら、有する能力を発揮できるよう支援し、笑顔で暮らせるように職員だけでなく、入居者様同士も多くかかわるように努めている。</p>
---

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

<p>豊四季台団地のマンションの1階に「グループホーム豊四季台」はある。同建物には同法人のデイサービスと特別養護老人ホームが併設されており、消防避難訓練や催し物の合同開催等、様々な場面での協力体制が構築されている。また、身体状況の変化に応じてサービスの切り替えが円滑に出来るよう連携も図られている。団地内には高齢者が多く住んでおり、散歩や買い物時での挨拶や立ち話等、入居者と地域住民との交流が日常的に行われている。囲碁や大正琴等、入居者のニーズに合わせたボランティアの受け入れが行われていると共に、家事等の日常的な作業も積極的に取り入れられており、身体機能の維持・向上を目指した生活環境整備に取り組んでいる。</p>
--

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自分らしく穏やかに笑顔で暮らせるように支えるの理念を共有し、その方が、望まれる生活が出来るよう努めている。	「自分らしく穏やかに笑顔で暮らせるように支援する」事を主眼とした、法人としての理念を掲げている。理念を施設内に掲示し、職員や来訪者に周知を図っていると共に、職員は会議等で理念に基づいたサービスの支援方法を確認し、サービスの実現に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会主催のお祭りや商店街での買い物等、地域との交流に努めている	日頃から団地住民とは挨拶や地域行事等の参加を通じて、地域交流を図っている。また、入居者のニーズに合わせ、囲碁・大正琴等の地域ボランティア受け入れも行っており、施設の理解促進や入居者の生活活性化に繋げている。開設時から、自治会には施設についての活動内容や役割等を丁寧に説明しており、地域住民から理解・納得が得られるよう取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会を通して発信している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3か月に1回開催し、ホームでの活動報告、事故報告等、情報を提供する中で、ホームに対して頂いた意見をサービス向上に努めている。	市役所職員・自治会長・民生委員・入居者家族・施設職員等を構成員として、3か月に1回、運営推進会議を開催している。会議では、施設活動報告・意見交換等を行い、施設の理解促進に努めると共に、挙げた意見・要望はサービスの質の向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要に応じて、随時報告相談を行い協力関係を築いている	市とは、定期的な日常業務の報告・連絡・相談や運営推進会議への出席依頼等を通じて、協力関係が構築されている。また、柏市グループホーム連絡会の会議では会員として、市との意見交換・情報交換を行い、市と他のグループホームとの協働体制強化を図り、サービスの質の向上に取り組んでいる。	

グループホーム豊四季台

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	束縛しないように取り組んでいるが、建築の際、市に報告し玄関だけ、オートロックにしている。	身体拘束排除におけるマニュアルを整備していると共に、内部研修では事例に基づいた指導が行われており、全職員が身体拘束排除に向け取り組んでいる。玄関は構造上オートロックとなっているが、家族等へ説明し理解が得られている。また、職員による見守り方法の徹底やその日の入居者の状況把握・迅速な対応方法を確認し、入居者の安全で自由な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々見過ごされないよう注意している。また問題が起きた時は、第三評価機関に依頼し実態を調査して頂いている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	まだ学ぶ機会がないが、成年後見人制度を利用されている方が、おられ、実際にかかわり、協力し合う関係を築いているので、今後学ぶ予定。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	必ず契約者への説明及び納得を図り、十分に理解していただけるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し、いつでも意見を頂けるよう関係作りに日々心がけている	意見箱の設置・家族の面会時・運営推進会議等を活用し、直接家族の意見や要望を確認している。定期的に入居者一人ひとりの日常生活の状況を手書きにて送付しており、家族とコミュニケーションを図りながら、意見や要望が言い易いような環境作りを心掛けている。。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングや連絡ノート等により意見や提案を聞く機会を設けている	定期的に会議を開催し、職員からの意見・提案等を確認していると共に、運営や日々の支援に反映させている。ケアについての情報交換ノートが用意されており、全職員が自由に書き込む事が可能で、意見・要望・疑問等を表現し易いような職場環境の整備に取り組んでいる。	

グループホーム豊四季台

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事評価制度により正当な評価に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	その時必要となる共通の知識や技術について学び、身につけるよう取り組んでいる		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホーム連絡会に参加し情報を灯日々のケアに役立てている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	傾聴することを常に心がけ本人のこれまでの生活を尊重し安心して生活出来るようその方に寄り添うケアを心掛けている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様が抱える不安、要望に耳傾け必要なことはすぐにケアに反映するよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族のニーズの把握に努め必要に応じて社会資源活用に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	同じ時間を共有し何事も共に行い有する能力を発揮して頂けるよう働きかけを行ったり、職員の知らない時代や食事準備の方法等学び支えあう関係に努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族にご本人の現状をお便り等で、報告し共有を図り本人と一緒に支える体制をこころ掛けている		

グループホーム豊四季台

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人、親戚、病院等、ご家族ご本人の意向に添って、関係が途切れないよう支援に努めている	一人ひとりの希望に応じた場所への外出を支援すると共に、知人・友人の来訪や電話・手紙のやり取り等も支援しており、馴染みの場所や人との関係継続に努めている。家族・親戚との外出・外泊は自由となっており、家族との関係継続に配慮している。また、お墓参り・年賀状・地域行事への参加等、生活習慣を尊重した外出支援にも取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	出来ることの把握に努め散歩や生活レクの中でお互いがその力を発揮し支え合えるよう支援している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方の要望に応じて入居中の書類情報の提供等退去後のフォローに努めている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中でコミュニケーションを大切にしその方のニーズを把握し、背景を家族から聞き取る等、ご本人主体になるように努めている	契約時に本人・家族から意向・生活歴・身体状況を確認すると共に、必要に応じて医師や他の事業所からも情報を収集し、より詳細な情報の把握に努め、記録している。入居後は会議等で情報交換ノート等の記録を活用し、意見・情報交換を行い、本人本位にて検討し、全職員がより新しい情報の共有に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面接時のアセスメントやケアを受けていた方等については、先方との情報の共有に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録や毎日申し送りにて共有をはかっている		

グループホーム豊四季台

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人ご家族職員と情報を共有し今必要とするサービス支援のあり方について考え、こまめに対応している	記録を基に、会議にて意見・情報交換を行い、介護計画を作成している。定期的に目標達成状況の確認や評価を実施し、必要に応じて介護計画の見直しを行っている。家族からの意見・要望は随時確認しており、入居者・家族の意向が反映された、現状に活かされるような介護計画の作成に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録等により情報を共有しケアの工夫、見直しに努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々発生するニーズに対応出来る取組に心掛けている(外出 ボランティアへの働きかけや、希望する病院、レンタルサービス、ご家族の要望に応じて食事の提供)		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の商店街 市民会館 行楽地の活用、ボランティアの受け入れ等行っている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前よりかかりつけ医が居る際は継続して頂き、居ない際は要望に応じて地域のドクターを紹介している	受診においては、基本的には入居以前からのかかりつけ医となっており、家族対応の受診としている。希望に応じて病院の紹介や緊急時における搬送病院の確保等、家族の納得が得られるような適切な受診支援に取り組んでいる。併設の特別養護老人ホームの看護師とは緊急時・医療全般におけるアドバイス等、協力体制が図られていると共に、その都度家族への状況報告がなされており、情報の共有化が図られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	基本看護職との提携は無いが、毎日のバイタルチェックにより健康管理を行っている		

グループホーム豊四季台

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	担当医や家族と連絡を密に取り、退院に向けて情報交換に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人ご家族の意向を大切に、担当医と連絡を密にとりながら、事業所で出来ることを説明、方針を共有しチームで支援に取り組んでいる	重度化・終末期に関しては施設での看取りは行っていないが、施設方針を契約時に本人・家族に説明し、同意を得ている。終末期や重度化した場合には、家族や関係者と話し合いを行い、本人・家族の意向に沿えるよう努め、安心・納得が得られるよう取り組んでいる。また、併設の特別養護老人ホームへの切り替えが円滑に行えるよう、協力体制の強化が図られている	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署での研修終了者が、中心になり対応を話しあっている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	特養と一緒に年2回 消防訓練を行っている	非常災害時におけるマニュアルの整備されていると共に、火災報知機・自動通報機・スプリンクラー等が設置されている。年2回、併設の特別養護老人ホームと合同で消防避難訓練を実施しており、併設施設との連携強化や避難方法の確認を行っている。昨年、建築中に大震災に合っており、強度を見直す等の再検討がなされ、耐震構造の強化された建物となっている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の個性に合わせた対応をし、言葉遣いや口調、トーン声の大きさ等に気をつけ言葉かけや対応をしている	プライバシー保護に関するマニュアルの整備や研修が実施されており、プライバシーに対する意義や理解を職員全員が共有している。接遇においては、個人尊重の対応に心掛け、その人に合った言葉使いや相手の立場に立った対応方法等を指導し、その人らしい適切な支援が行えるよう努めている。	

グループホーム豊四季台

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いを語って頂けるような言葉がけや会話に心掛け自分で自己決定が出来るように働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを尊重し職員がその変化に対応して、その方のペースにあわせて支援出来るよう努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理容や毎日の身だしなみ、服選び、化粧等の支援を行っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月1回の外出や個々の出来ることに応じて調理、盛り付け、食器洗いを職員と共に行っている	食事は配食業者に委託し、栄養バランスに配慮された食事提供がなされている。その時々のお食事に入居者の希望の一品や、菜園の野菜を活用した料理等が追加されており、台所や調理を忘れないよう配慮し、身体能力の維持・向上に努めている。全員が参加の外出会や行事食・特別職等を実施しており、様々な食の楽しみを提供している。また、弁当持参の散歩等、食が活動に活かされ、職員と入居者の楽しみの共有に繋がっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が献立を作りバランスの良い食事を提供している。水分量 食事量は記録し把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声掛け誘導をおこなっている。訪問歯科医受診実施		

グループホーム豊四季台

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表により個々の排泄パターンを把握しそれぞれにあったタイミングで声掛け誘導、失禁を減らし自立に向けて支援を行っている。	排泄チェックリストを活用しながら個々の排泄パターンを把握に努め、声掛け・トイレ誘導を行いながらオムツ・パットの使用頻度の軽減に努めている。トイレ使用においては、個室で一人で使用するという認識を尊重し、さりげない見守りを行うと共に、紙パンツやパット類についても日常活動に配慮しながら、入居者本位で検討している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の散歩や体操により身体の活性化や、水分摂取表により把握し注意を図っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人の入浴希望に添えるよう努力しているが、早朝夜間は職員の配置と安全面等から行っていない	入浴においては夜間・早朝は安全面を考慮し実施されてはいないが、その他の時間帯は入居者の希望・体調等に応じて毎日実施している。また、必要に応じてシャワー浴・清拭等を取り入れ、入居者の清潔保持にも努めている。入浴拒否においては、一人ひとりに即した声掛けや日時の変更にて、無理強いせず、入居者の心情に配慮した入浴支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はなるべく活動していただけるよう生活リズムを大切にし昼食後は個々の体調を考慮し休息がとれるよう配慮し夜間の安眠を促している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書により理解し、服薬まで数回確認のうえ誤薬防止に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の力に応じ生活の中での役割をみだし張り合いのある日々を過ごし、ご本人の趣味嗜好品を楽しんでいただけるよう支援している		

グループホーム豊四季台

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日散歩や、月数回の買い物、月1回の遠出の外出を行っている	入居者の希望・体調・天候に応じてはほぼ毎日、散歩・買い物等の外出支援を実施している。月ごとに外出担当者を決め、入居者全員が参加できるように身体状況・季節等を考慮しながら、外出行事を企画・実施しており、様々な戸外での楽しみを提供している。他には、併設のデイサービスで行われるボランティアによる催し物への参加等、外部の人達との交流が行われており、入居者の生活活性化に繋げている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は基本的にはホームで行っている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個人の携帯電話で自由に電話している。フロアに電話を設置し使用出来るようにしているが、ご家族様の了解が取れている方に限られている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花やレクで創作した飾り物で季節感を出すように心掛けている。空気清浄器の設置や共用の空間の清潔に心掛けている	施設はマンションの1階にあり、介助スペースが十分確保され、入居者の安全が確保されている。また、天窓が設置されており、明り取りや空調等にも配慮されており、明るく居心地の良い空間となっている。玄関やリビング等の共有スペースには絵画や風景写真が掲示されており、落ちついた雰囲気となっていると共に、入居者の作品も飾られており、入居者の活動意欲に繋がるよう配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	キッチン前のカウンターやフロアのソファで思い思いに過ごせるよう配慮している		

グループホーム豊四季台

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や趣味の物を飾る等して、ホームにご自宅の再現を図り、居心地良く過ごせるよう工夫している	全居室は南に面しており、入居者の生活に配慮された造りとなっている。居室には馴染みの品々を自由に持ち込む事が可能で、その人らしい生活できるように取り組んでいる。また、生活歴・希望に応じて絨毯・畳等の選択が可能となっており、一人ひとりの個性に合わせた居室作りがなされている。各居室のドアには小さい窓が取り付けられており、不安・混乱・プライバシーに配慮された工夫がなされ、自立支援継続に取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりを設置、またトイレ浴室をわかりやすく工夫している		